

ムカシの競馬を読む

平成19年・中山競馬場
皐月賞
優勝馬:ヴィクトリー

© JRA



第139回 10年・20年・30年前の4月



いまから10年前、平成19年の4月というと、桜花賞をダイワスカレット、皐月賞をヴィクトリーが勝った月にある。このうち皐月賞は2着に15番人気サンシツエッペリンが入り3連単162万円という大波乱になったが、それをこの人が的中していた。平成19年4月18日付のスポーツ報知から。

「お笑いコンビ『爆笑問題』の田裕二が17日、都内で会見し、15日に行われた競馬の第67回皐月賞で計797万8000円を手に入れたことを明らかにした」

さきほどの3連単を200円、9万円台の配当だった馬連を5000円とったそうである。他紙の記事では「半分は税金」と語っているが、競馬の配当は一時所得扱い。半額算入ですむ。田中さんのようにもともと所得税率が最高レベルまで来ている人でも、所得税率が45%（この皐月賞当時は40%）、住民税が10%で55%。半額算入の

約半分を持っていかれることになる

ので、的中金額の4分の1を取られると考えておけばよい。

この前週、障害レースでは大記録が達成されていた。第9回中山グランピングについて、4月15日付のサンスポから引用しよう。

「ブレッド・スコット騎乗で1番人気のオーストラリア馬カラジが、最終

コーナーで先頭に立つと、あとは手応えの違いで押し切り、中山グラン

ドジャンプ3連覇を達成した（中

略）12歳での勝利はカラジ自身が昨年記録したJRA史上最高齢

勝利記録を塗り替え、障害競走の

同一重賞3連覇はパローネターフ（77～79年・中山大障害秋）以来史上2頭目」

カラジは翌年も来日したが、屈腱炎を発症し出走を断念。引退も決まつたため、中山競馬場で関係者だけによるささやかな引退式がとり行われた。引退後のカラジは引き続きエリック・マスグローヴ厩

ムカシの競馬を読む



1970年東京生まれ。競馬ライター。サラブレ、大阪日刊スポーツなど各種媒体に寄稿中。

すだ たかお 須田鷹雄

舎で繋養され、同厩舎の調教施設がカラジパークと名付けられていたようである。

カラジのあとは平成20年にロードフランツが、昨年にはスマートギアが障害未勝利を勝っているが、12

歳での優勝はカラジが唯一だ。一方、オーストラリアでは動物団体による障害競走への反対運動が盛んになり、現在はヴィクトリア州と南オーストラリア州でしか障害競走が行われていない。中山グラン

ジャンプも数年に一度しか外国馬

が来なくなっているし、寂しい話である。

地方競馬ではこんな話題も。4月16日の東京新聞夕刊から。

「経営難のためソフトバンクグループの支援を受け27日からばんえい競馬を単独開催する北海道帯広市は、3月のレースを最後に引退した人気馬リッキー（牡9歳）を市特別嘱託職員として採用した。PRが目的で、餌代は市が負担

全国各地のイベントに参加し、じわじわとばんえい人気を広げてくれた。その効果もあって、一時期は第二の廃止騒動も起きたばんえい競馬もここ数年は売り上げが持ち直し、年度末の大一番・ばんえい記念も1着賞金が1000万円台のままプロモーションに駆りだされたことの多かったドーザンシユなどが

全国各地のイベントに参加し、じわじわとばんえい人気を広げてくれ

た。その効果もあって、一時期は第

二の廃止騒動も起きたばんえい競

馬もここ数年は売り上げが持ち直

し、年度末の大一番・ばんえい記

念も1着賞金が1000万円台の

馬を回復した。

続いている。いまから20年前、平成9年4月。さきほどカラジの話題を

引用しよう。

JRAはともかくWINSの由来

は忘れられない。だが、「ウインズ・

グスピット」や「ウイークエンダスピット」から連想した造語と当時のJRAは説明している。

国鉄改革で決まった「JR」と似て

ていることや日本赤軍と丸かぶりであることは、當時指摘されたし、実際に「場外」にいる馬券おやじから

は「ウインズ!」と違和感を示され

ていたりもしたが、なんだかんだで

このときのCIは競馬人気に貢献

したのではないかと思う。個人的に、対競馬ファンのヒット作はグレード制だと考えるのだが、対世間

の標的にもされやすいということ

を活動に利用しようという人

もうひとつは4月6日付のスポーツ

も苦しかったボレールだが、前半好位につけるなど意地を見せ、12着ではあたたがインターライナーなど3頭に先着。その秋以降も京都大賞典や大阪杯で平地挑戦を果たした。

さすがに平地の一線級が相手では苦しかったボレールだが、前半好位につけるなど意地を見せ、12着ではあたたがインターライナーなど3頭に先着。その秋以降も京都大賞典や大阪杯で平地挑戦を果たした。

春の中山大障害を勝つてその後走が平地戦というのはキングスボイント（京都大賞典）やパローネターブッグタイトルは京都大障害春が、ここでは67キロの重量になる」65キロで東京障害特別を使い3着に敗れていたボレールは斤量面の不安から京都大障害への出走を断念、58キロで走れる天皇賞春への参戦を決めたというわけだ。

春の中山大障害を勝つてその後走が平地戦というのはキングスボイント（京都大賞典）やパローネターブッグタイトル（天皇賞秋の例）があつたが、いずれも秋シーズンを平地からはじめた形で、秋の中山大障害への準備。天皇賞春への出走はその意味でも異例だった。

春の中山大障害を勝つてその後走が平地戦というのはキングスボイント（京都大賞典）やパローネターブッグタイトル（天皇賞秋の例）があつたが、いずれも秋シーズンを平地からはじめた形で、秋の中山大障害への準備。天皇賞春への出走はその意味でも異例だった。

さすがに平地の一線級が相手では

苦しかったボレールだが、前半好

位につけるなど意地を見せ、12着

ではあたたがインターライナーなど

3頭に先着。その秋以降も京都大

賞典や大阪杯で平地挑戦を果たした。

もうひとつは4月6日付のスポーツ

も苦しかったボレールだが、前半好

位につけるなど意地を見せ、12着

ではあたたがインターライナーなど